

Pre 医療専攻だより Vol.3



新潟県立小出高等学校 1 学年

2月26日(火)、1学年の医療専攻を希望する生徒34名を対象に第3回医療専攻講演会が行われました。今回は新潟県立看護大学看護学部 准教授 山田 正実先生より、医療全般のお話、大学で医療を学ぶことについてお話を伺いました。

はじめに医療全般のお話を「“手術”という治療を受ける人の例」を通して講演いただきました。

55歳の男性が検診で胃がんが発見され、手術を受けることになりました。そこで行われる治療、看護活動について説明をしてもらいました。



まず始めに、手術は簡単なものでも命がけであるということ。それは手術をすることで「

血圧が上がる」「心拍数が早まる」「尿量が減少する」など様々な生体反応が起き、それによって術後合併症「肺炎」「循環器不全」「感染症」などがおきるからです。そ

れを「手術侵襲^{しんしゅう}」といいます。そのようにならないためにも、1人の患者に沢山の専門職者が協力しているということです。看護師の役割として、手術前には、患者さんが前向きに臨めるように心身を最良の状態にする看護(外来看護師・病棟看護師)、手術中には不安を軽減させ、安全かつスムーズに器具を渡す看護(手術室看護師)、手術後は苦痛を和らげ、

安全で安楽なケアにより回復を援助し、退院後の生活指導をおこなう看護(ICU看護師、病棟看護師)があり、このように担当者が替わっても連携してつながる、医療チームをつなげる専門職であることを学びました。

このように現場で必要な知識は多岐に渡り、大学では次のようなカリキュラムの中で学ぶことができることを知りました。例えば、手術前の不安や心配を聞いていくための「心理学」、患者さんが人生においてどんな役割や健康問題をもちながら入院しているのかは「ライフステージと看護」、患者さんとのコミュニケーションを取るスキルは「看護援助論」、呼吸・循環機能のしくみは「形態機能学」、バイタルサインの測定と観察は「基礎看護技術演習」、感染症に関しては「感染



学」などのカリキュラムを学習していくということでした。

次に看護師になるためには大学4年間・短大3年間・専門学校で3年間のいずれかで学ぶことで国家試験の受験資格が得られるわけです。その選択において大学で学ぶということをまとめると、保健師や助産師の受験資格を取得できること・卒業までの単位数が多いため、看護学を体系づけて学習でき、思考力や判断力が養われること・課外活動を通して看護だけでなく幅広い知識が得られることなどの説明がありました。

また、専門学校の特徴として、大学に比べ現場での実践力を養う教育に比重がおかれているということでした。



《生徒の感想》

・手術の前後やしている間にも看護師が必要だということがわかった。患者さんの心のケアや心の安定を保つために不安を無くし安心して手術をしてもらうためにコミュニケーション力を高めていくことが大切だと知りました。人間の体はその時に応じていろいろな症状が起きることがわかり、体の中ってとても複雑ですごいなと感じました。

・患者さんが手術を受けるには、沢山の医療者の人たちがチームを組んでサポートしていることがわかりました。中でも看護師が患者さんに1番



近い存在で患者さんに安心して治療を受けてもらうためには、沢山の分野の勉強をする必要があります、大変そうだけど大切な知識になるんだろうと思い、興味を持ちました。私が目指しているのは作業療法士ですが、リハビリまでの医療の流れを知ることができよかったです。また、学びの姿勢は看護師と似ていると思うので、沢山の知識を身につけたいと思います。

・今日の講演で医療の仕事がどんな仕事なのか、細かく知ることができた。また、大学と専門学校の



メリットや特徴がよくわかった。私は大学進学を希望しているが、大学は124単位以上も取得しないといけないところにびっくりした。でも、大学では、一つの職業に向けての勉強に加え、様々なところから考えて知識を得るという点が、私は一番魅力を感じた。また、今日は医療現場でのコミュニケーション能力についても知ることができた。1人の患者さんに沢山の専門職の人たちと協力して治療をするので、患者さんだけでなく幅広い人たちと触れ合う仕事だと知ることができた。